



阿久根
賢一



岡
理事長



今後は医療と介護の連携が、本当に大事になってくる (岡理事長)

阿久根 医療と介護の連携プレーの一つの形は、医療で的確な診断をして、介護はそこから予測される症状を考慮しながらケアを組み立てていく。それとやはり、内服薬でのコントロールですね。認知症を有される方の中には暴れたり、ひどく落ち込んだりと、様々な症状の方がおられます。お薬も併用しながら、ケアとミックスしてやるのが大事だと思います。医療と介護の連携は、もうすでに必要とされていると思います。ほうせんか病院とはより強力で連携し、情報共有していく必要があります。病院から老人ホーム、老人ホームから病院との行き来も増えていますし。

岡理事長 こちらで病状が落ち着いた方で、お家に帰るのは難しい、受け入れるご家族がいない。あるいは仕事をしているなど、ご家族がお世話をするのが難しいという場合は豊泉家のホームやサービスをご紹介して、そちらに入居される方もけっこうおられます。豊泉家で肺炎などを起こして、一時的にこちらの病院に入ってくる方も、実際におられますし。これからは医療と介護の連携が、本当に大事になってきますね。

阿久根 岡先生は医療に携わる者の立場から、今後は認知症にこうアプローチしていこう。こんな取り組みをしていこうという考えはおありですか。

岡理事長 私の専門は消化器内科で、肝臓ガンとか肝硬変の人を見ていました。これから認知症を掘り下げて、具体的になにかをするのは、難しいかもしれませんが、私の専門分野の話ですと、肝臓の機能が低下して起こる、肝性脳症という病気があります。認知症のように意識レベルが落ちておかしなことを言ったり、暴れたり、昏睡になったりするんです。だけど、これは治療で完璧に治る。認知症とは全く別の病気ですが、すごく良くなるんです。認知症も早く、そうやって治る時代になればいいなと思っています。

阿久根 先生には医師という立場から、またご入居者のご家族という立場からも、今後も密に連携を図らせてください。その中で、色々と共有することが多いと思います。また教えていただいたり、ご助言をお願いします。

岡理事長 ホームでの健康診断とかも強化したいですね。病気が見つかったら、こちらで出来ることもありますから。

阿久根 病気に関することは、福祥福祉会のクリニックとほうせんか病院の両に期待しています。介護のことであれば私たちにお声掛けいただければ、ありがたいです。ご利用者にとって、豊泉家だから良かったと言ってもらえるような環境を、先生と力を合わせて創っていきたいですね。グループだからこそ出来ることが、もっとたくさんあるはずですよ。成和会の療養型医療と、福祥福祉会の介護を上手くつなげられたら、サービスの質がより高まります。

我々の介護部門は、今まで病院が無かった点に弱みがありましたが、今はほうせんか病院があることで安心しています。ご入居者も、そのご家族もご安心いただけると思いますので、引き続きよろしくをお願いします。

岡理事長 こちらこそ、お願いします。

